

地元で発会記念講演会 白隠さんの会



350人が三島に集う

教えを広めていくことなどを目的に今年の4月に発足。6月9日に都内で発会記念講演会を開いていた。

28日は白隠禅師が開山となった龍澤僧堂の後藤榮山師家と、トーマス・カーシユナー花園大学国際禅学研究所研究員が講演した。後藤師家は地獄に落ちる恐怖感に心を痛めたこと、白隠禅師が出家した理由を紹介。さまざまにまな神学者や哲学者らの言葉や現代の状況に触れつつ、「地獄」と「極楽」について語った。

後藤師家は、仮想通貨を例に「金融地獄」として、「朝から晩まで一喜一憂し、地獄と極楽を行ったり、来たり。人間が地獄、極楽を作っている」と語った。

カーシユナー氏は臨済禅との出会いを紹介しながら講演。白隠禅師の教えを現代に生かすことについても語り、「普段の生活の中で僧堂での経験は自信になる」と、僧堂での修行生活を残してほしいと要望した。

一方、在家の居士・大師の坐禅者が40〜50年前と比べ減少していることに危機感を示し、「若い人の多くは禅寺について知らない。一般の人が坐禅会に参加すれば興味が出てくるはず。白隠さんなら前向きに考えよう」と述べた。

参加した地元的女性は「とても良かった。特に後藤老師の話に感動した」と話していた。

午前中は「白隠さんの会」会員限定のバスツアーを行い、禅師の誕生地の「無量堂」などを巡った。

臨済宗妙心寺派「白た。会場いっぱいとなる隠さんの会」（白隠禅師 約350人が集った。奉賛会）は28日、禅師 同会は妙心寺派が白隠の「地元」静岡県三島市 禅師の250年遠諱事業で発足記念講演会を開い 終後も継続的に禅師の